

電子情報デザイン入門

(第5回)

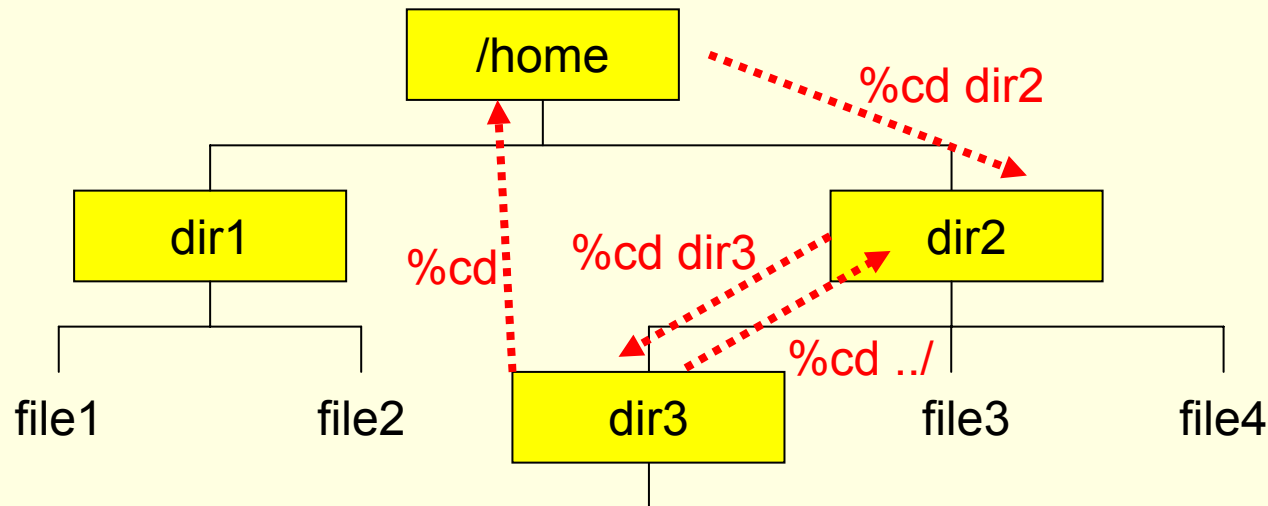
UNIXコマンド(2)
RAINBOWガイド2004 第2章～第3章

本日のスケジュール

- ディレクトリの説明
- リダイレクト(簡単にファイルを作る)
- ファイルのアクセス権
- ワイルドカード

ディレクトリの構成

- ファイルをどんどん作っていくと整理不可能になる
 - ディレクトリ(ファイルを入れる入れ物)をつかって管理する
 - ディレクトリは下図のように, 木(ツリー)構造を持っている
 - ディレクトリ: windowsではフォルダと呼んでいる
- カレントディレクトリ: 現在作業しているディレクトリ
カレントディレクトリの表示⇒`%pwd`(print working directory)
- ホームディレクトリ: login時に作業するディレクトリ
- ディレクトリ間の移動⇒`%cd`

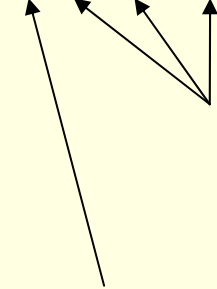


file5 ← `/home/dir2/dir3/file5`のようにあらわす

ファイルのアクセス権

■ ファイルを%ls -lでみるとアクセス権が表示される

d**rw**x**rw**x**rw**x 1 (所有者) (グループ) (サイズ) (更新日) (ファイル名)



それぞれ, **所有者**, **グループメンバ**, **その他のユーザ**に対するアクセス権をあらわしている.

r: 読み取り(read), w: 書き込み(write), x: 実行(execute)

ディレクトリの場合:d

ファイルの場合:-

■ アクセス権の変更は%chmod コマンド

rwx**rw**x**rw**xに関して, 付与したいアクセス権を1, したくないアクセス権を0で2進数であらわし, それを8進数で3桁の表示をする.

(例)rw-r----- (所有者は読み書き可, グループメンバは読みのみ可, その他のユーザは何もできない)⇒%chmod 640 (file名)とする

標準入出力のリダイレクション

- 標準入出力: 通常は端末
- 出力リダイレクション(>)によって, 出力をファイルに変更できる.
 - 例: `%ls -l > list`
`%ls -l` の実行結果をlistファイルに出力する
- 入力リダイレクション(<)によって, 入力をファイルに変更できる
 - 例: `%bc < infile`
プログラム実行時にinfileから入力する.
(infileにはa=8, b=3, c=a+b, cと書いておく)
- 出力リダイレクションを(>>)に変更すると既存のファイルへの追加書き込みが可能

C言語プログラム解説

```
#include <stdio.h>
main()
{
    int a,b,c;
    printf("INPUT DATA a:"); /*整数aを入力するように表示*/
    scanf("%d",&a);          /*整数aを入力*/
    printf("INPUT DATA b:"); /*整数bを入力するように表示*/
    scanf("%d",&b);          /*整数aを入力*/
    c=a+b;                   /*a+bを計算*/
    printf("a+b=");          /*「a+b=」を表示*/
    printf("%d¥n",c);         /*整数cを出力*/
}
```